

堀内さんと愉しむ四字熟語

第19回 「壮心不已」

そうしんふい



三国時代の
中原の覇者 曹操

文・写真:堀内 正範(ジャーナリスト・元朝日新聞社「知恵蔵」編集長)



「三曹」の像
所在地:河北省臨漳県 三曹園

三国時代の蜀に拠った劉備と諸葛亮・関羽を採りあげましたので、ここでは中原で覇をとなえた曹操と子の丕と植の「三曹」のようすを見ておきましょう。



曹操と子の丕と植の
「三曹」はみな
優れた文人だった

西暦220年に中原の古都洛陽で、「朝露のごとし」という64年の人生を終えた曹操。その事跡にちなむ四字熟語といえば、まずは「壮心不已」(自詩「歩出夏門行(龜雖寿)」)からでしょうか。

いまま年齢(暮年)にかかわりなく事業の将来への志が熱くやまないことを「壮心已まず」として広く用いられています。この詩作は厳しい冬の北征を終えたあと54歳のころでしたから、「烈士暮年、壮心不已」は実感でもありなお将来への願望でもあったのでしょうか。「老驥伏櫪、志在千里」とも詠っています。驥(き、駿馬)は老いて櫪(れき、うまや)に伏していても志は千里を走ろうとするのだ、と老成に盾突いてみせた曹操が、その後に覇業を成し遂げたことで、時代を越えて人を励ます名句になりました。「老驥伏櫪」ともいいます。

魏の皇帝になった曹丕の「文章は経国の大業にして不朽の盛事なり」(『典論「論文」』)から)による「経国大業」は、その後、国家のリーダーは「優れた文人」でもあることを課す不朽の名言になりました。経国の大業を実現するには、それを巧みに表現し政敵を説き伏せ国民に理解を求めねばならず、優れた「文の能力」が必要だからです。曹操と子の丕と植の「三曹」は優れた文人でした。司馬懿と子の師と昭を合わせた軍事の「三馬」に対する牽制の意味合いもうかがえます。



曹丕と曹植兄弟では、筆をおろせば文章をなしたという「下筆成章」の曹植が勝るといふ世評は当時からのもの。有名なのは曹丕が弟に求めた「七歩之詩」のエピソードで、詩には豆を煎るのに豆がらを燃やし、豆は釜中であって泣く、本は同根より生じたるに相煎ること何ぞ急なるとあって、「同室操戈、相煎何急」は仲間うちの争いに用いられます。国共両軍の争いに対する周恩来の悲憤としても記憶されています。

← 曹植が七歩でつくった「七歩之詩」から。
豆を煎るのに豆がらを燃やし、豆は釜中であって泣く・・・



「歩出夏門行」の部分
老驥伏櫪、志在千里、
烈士暮年、壮心不已



河南省安陽市で発見され
2010年に国家文物局が
認定した曹操高陵

曹操が一時都とした許昌市にある曹操像

曹操騎馬像





張衡

第20回 堀内さんと愉しむ四字熟語

「恵風和暢」

けいふうわちよう

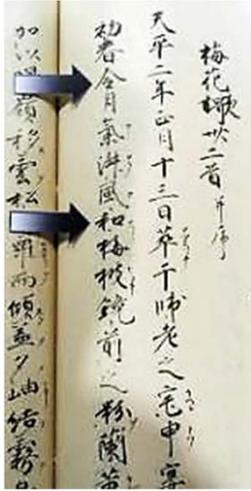


篆刻
「天朗氣清、恵風和暢」

文・写真:堀内 正範(ジャーナリスト・元朝日新聞社「知恵蔵」編集長)

新元号「令和」の時代が始まりました。選定の説明で安倍首相は、国書『万葉集』（天平2年、730年）が典拠となったこと、大化（645年）から248番目で初めて脱漢籍の新元号を得たことを「令（よ）き大和民族」の「国風」につなげて誇りとしました。

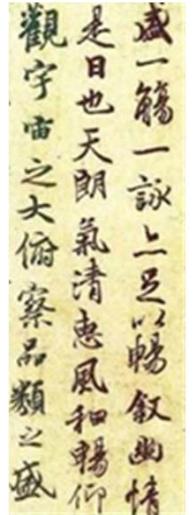
しかし日中の知識人の中には、恒例の漢籍と初の国書の双方を典拠とするのが穏当で、それでこそ漢字文化圏の広がり豊かさと日中の絆を証かすことができたとする評価があります。



蘭亭の宴



王羲之



「蘭亭序」から
「天朗氣清、恵風和暢」

『万葉集「梅花の歌三十二首并序」』の「初春令月、氣淑風和」が新元号「令和」の典拠に

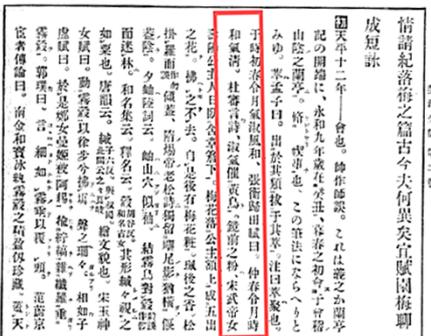
大宰府の自邸で、王羲之の「蘭亭の宴」にならって「梅見の宴」を開いた大伴旅人が、「梅花の歌三十二首并序」（『万葉集「巻五」』に載る）に「初春令月、氣淑風和」の八字を記すにあたって、漢籍から想を得ていたことはたしかだからです。まずは王羲之「蘭亭序」の「天朗氣清、恵風和暢」から「氣、風和」を、さらに知識人の必読書『文選』に載る張衡「歸田賦」の「仲春令月、時和氣清」を念頭に「春令月、和氣」を得ており、これは「令和」の典故になりえます。

「序」の八字にはもうひとつ、当時、遣唐使がもたらした文献からも、ふさわしい表現として化用（借用）したことが想定されるのです。高宗のもとで文学の発展に寄与した薛元超の「諫蕃官仗内射生疏」にある「時惟令月、景淑風和」は最も類似した表現として指摘されます。



「蘭亭序」全文

張衡「歸田賦」から
「仲春令月、時和氣清」



契沖『万葉代匠記』の「初春令月、氣淑風和」注

江戸期の契沖『万葉代匠記』には王羲之や張衡のほか、「氣淑」は杜審言の詩から、「鏡前之粉」は宋の寿陽公主の梅花粧に負うなどの注がなされています。外来の優れた文物をなお勝れたものにする日本文化の「和風」が持つ多重性が民族特性なのです。「令（よ）き和」の和は「国際平和」であり、現憲法が掲げる「反軍事平和」の国づくりが最大の「和風」事業であることに思いをめぐらせながら、「憲法記念日」を含む改元の年の五月の風暖かく陽光明るい「恵風和暢」の休日をご過ごしたのです。



「蘭亭序」の「恵風和暢」は書家に好まれる四字熟語

第21回 堀内さんと愉しむ四字熟語

「楓林如火」

ふうりんじょか



京都嵐山



紅葉

文・写真:堀内 正範(ジャーナリスト・元朝日新聞社「知恵蔵」編集長)

「蝉声陣陣」といった夏の日々が過ぎ去ると、ゆっくりと移ろいながら人の目を驚かせ楽しませてくれる「秋色迷人」の日々が訪れます。そのきわまりが「楓林如火」でしょうか。その途中に、二四節気の秋分を挟んで白露と寒露があり、秋の深まりを一点に凝縮した美しい「玉露生寒」があります。「金風が暑を去り玉露が涼を生ずる」という心地よい時節です。

秋がなお深まって、満山紅葉で火の海に踏み込むような風景との出会いは鮮烈です。世界中に名所がありますが、長い期間に受け継がれ培われた京都の紅葉は、その精緻な美しさでは類を見ないといって過言ではないでしょう。

中国には四大賞楓地があって、南京棲霞山・北京香山・蘇州天平山・長沙岳麓山がそれ。その中でも「深秋棲霞、楓林如火」といわれる南京棲霞山が甲天下の名所です。山中にある棲霞寺(棲霞精舎)は南齊時代からのもので、ここから日本へと渡った鑑真の記念堂もあります。



南京棲霞山



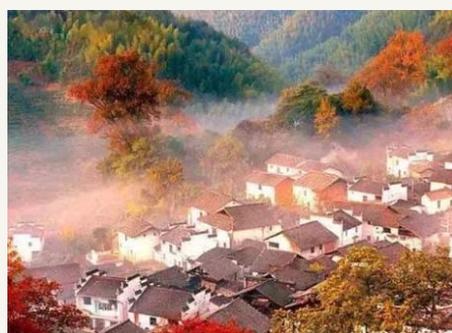
蘇州天平山



長沙岳麓山



北京香山



江西省石城村

広い中国ですから賞楓地にはそれぞれに特徴があって、たとえば石城村(江西省)では特色の黒瓦白壁の家々の上に高さ35mもある古楓の樹が連なってあたかも一幅の古画を見るようだといいますし、吉林市紅葉谷(長白山)では延々とつづく紅葉や黄葉で、さながら画卷のようだといいます。浙江省温州市には元明時代から修復して村々をつなぐ70余条の紅楓古道が保存されています。



浙江省温州市



吉林市紅葉谷(長白山)

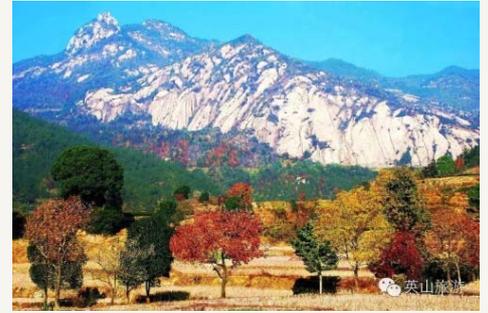
そして中国最大の紅葉観賞地といわれるのが四川省米亜羅の紅葉風景区です。北京香山の180倍、品種も多く色彩も層をなして広がり、見事というよりほかに言葉がないといいます。

フランスのパリには「楓丹白露」（朱自清『欧游雑記』から）という優雅な漢訳地名で呼ばれる宮殿があります。そうです「フォンテンブロー」です。2015年3月に、楓丹白露宮の中国館から、清末に北京の圓明園から流失したのちここに収蔵されていた展示品が盗難にあって話題になりました。

季節は霜降・立冬から小雪へと急ぎ足で移ろっていきます。



楓丹白露(フォンテンブロー)



四川省米亜羅の紅葉風景区

第22回 堀内さんと愉しむ四字熟語



「猫鼠同眠」

びょうそどうみん

文・写真:堀内 正範(ジャーナリスト・元朝日新聞社「知恵蔵」編集長)

十二支最初の子(鼠)年の始めにネズミにちなむ四字熟語をいくつか採り上げておきましょう。

十二支にはそれぞれの特徴を活かした成語がありますが、最も小さなネズミは「胆小如鼠」や「目光如鼠」といった弱小なもの例に実感があります。

よく用いられる「大山鳴動して鼠一匹」は何か成語がありそうに思われますが、これは古代ローマの詩人ホラチウスの詩からで、中国では「雷声大、雨点小」が同じ意味合いで用いられています。

「首鼠两端」には、ネズミが穴から首を出して左右を見回しているようすが思われます。テレビ慣れしていない出演者が真ん中で右左を気にしてやたら首を振るようすはこの好例としていいでしょう。

竜虎や牛馬や犬猿といった大物同士の成語のもつ迫力には及びませんが、ヒトの身近で敵対しつつ生きてきた「猫鼠」の間柄が持つ意味合いはちょっと複雑です。

「窮鼠噬猫」(『塩鉄論「詔聖」』は窮鼠噬狸。狸は野猫)は現場を見なくとも想像がつかます。ただし中国の常用のことわざは鼠でなく兎で「兔子咬人」のようです。



新年祝福語「鼠兆豊年」

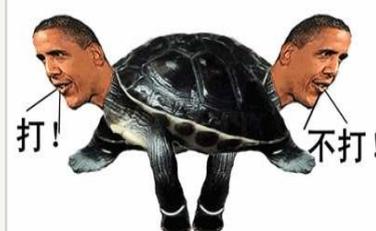


「胆小如鼠」
胆が小さくてネズミにも笑われる

将来同じ固形食餌で暮らす猫鼠は「猫鼠同眠」に



奥巴马打叙利亚首鼠两端



「首鼠两端」 シリア問題で攻撃の決断ができないオバマ大統領



タイトルにした「猫鼠同眠」(『金瓶梅「七六回」』など)は猫と鼠がいっしょに眠るというもの。こんな情景は通常はありえません。あるとすればネコのほうに問題があって、唐代には「猫鼠同処」(『新唐書「五行志」』など)といわれて、官吏の職務怠慢や汚職を戒めることばとして用いられました。

今日ではペット用の固形食餌がスーパーの一角を占めるほどに豊かで、高齢用の医療用缶詰などはヒトのものよりも勝れている内容と見受けられます。ですからネコは穀物を食い荒らすネズミ駆除という天職を失っても、愛玩の対象としてコンパニオンとかファミリーの一員の立場で大事にされています。失った時のペットロスが問題になるほどに。

「猫鼠」が同じ固形食餌でいっしょに暮らす時代になれば、「猫鼠同眠」は「平和」な意味合いをもつ四字熟語のひとつとして生き継ぐことになるでしょう。



恒例の「春聯」
(中央電視台春節聯歡晚會)は
1月24日除夕10:00から

